

「いけばな街道」は、誰もがその人らしく社会参加する機会を花やいけばなを通してつくる活動

「認知症の人にやさしいまち・うじ」で

宇治橋通り商店街 いけばな街道2020

おもいやりをつなぐ花「スターチス」と宇治の「茶の木」で、いけばなを認知症の人たちと一緒に作成して、宇治橋通り商店街に飾ります。新型コロナウイルス感染を気にせずに、YouTubeで安心して鑑賞して頂けます！



開催日時：2020年10月24日（土）15:00～21:00
25日（日）9:00～15:00

※10月24日（土）16:15～16:55 YouTubeによるライブ配信

YouTube「フラワー・サイコロジー」で検索

開催場所：宇治橋通り商店街のお店や通り

今回参加して頂けなかった施設や地域の皆様、メールにてスターチスのいけばなの作品を画像で届けてください。スターチスが入っていればどんないけばなでも結構です。当日商店街の通りに展示し、皆様の「おもいやり」をつないでいきます。（メールアドレス：info@flower-psy.jp）

主催および問い合わせ：

NPO法人フラワー・サイコロジー協会 〒615-0092京都市右京区山ノ内富臨町15-1クレスト御池608
TEL 070-5555-4169 または、TEL 090-8651-4766 Mail: info@flower-psy.jp

共催：・宇治橋通り商店街振興組合・NPO法人まちづくりねっと・うじ

後援：・宇治市・一般財団法人宇治市福祉サービス公社・社会福祉法人宇治市社会福祉協議会・エフエム宇治放送株式会社
・株式会社落タイ新聞

協力：・一般財団法人日本老人福祉財団 京都（ゆうゆうの里）・デイサービスセンターくりくま・有限会社花和商店
・日本いけばな療法学会

「いけばな療法」と「いけばな街道」

認知症非薬物療法「いけばな療法」は、2007年にフラワー・サイコロジ研究所にて考案、これまでに延べ40,000人の人たちに実践してきました。いけばなの制作プロセスとその作品が、人々の心理面や行動面、その発達に対して療法的に介入できるように開発実践しているプログラムです。その効果、特徴としては、認知症の周辺症状BPSDの緩和、また周囲の人にも同様の効果があります。非薬物療法の標的分類項目（認知面、感情面、行動面、心理面）にアプローチでき、攻撃性、易怒性、引きこもりの傾向にある人にも効果があり、花を介して人と人との良好な関係性を構築し、集団への参加につながられる療法といえます。宇治市内では、昨年より「いけばな療法」体験セミナーを開催し、宇治橋通り商店街で「花とこころのサロン」を定期開催するなど取り組んでいます。

また、「いけばな街道」は、認知症の人たちのように、外出が困難な状況の人が、いけばなを通して社会参加することを目的に開催しています。また、「いけばな街道」の作品は認知症の人だけではなく、活動に協力してくれる人々、展示する地域の人々も、それぞれに役割を持ち一緒に作りあげていきます。

2018、2019年には京都市右京区の嵯峨鳥居本において、「いけばな街道」を開催し、認知症高齢者等の社会参加につなげてまいりました。今年度は、コロナ禍でもオンラインとオフラインを融合した内容で安全に楽しんでもらえる方法で実現できました。



右京区の「いけばな街道」



スターチスの花

「宇治橋通り商店街 いけばな街道2020」では



「宇治橋通り商店街 いけばな街道2020」は、孤立しがちな施設や地域の認知症の人たちの社会参加と地域の人たちとの交流、そして宇治市が提唱している「認知症の人にやさしいまち・うじ」が市民の人たちにさらに浸透することを目的としています。

コロナ禍で、いつも以上に外出が困難であったり、施設へのご家族や知人の訪問が制限されたり、辛い思いをされているのではないだろうか。

今回の「いけばな街道」では、スターチスの花(花言葉: 途絶えぬ記憶、変わらぬ心)と宇治特産の茶の木(花言葉: 追憶)を使って、認知症の人たちの心込めていけられた作品を商店街のお店にお渡しし、お店の中や軒先に飾って頂き、お店の方や訪れる人たちとの心の交流をして頂きたいと思ひます。

また通り2か所のポイントには、施設や地域の皆さんで作ったスターチスと茶の木の「花玉」を飾ります。たくさんの方々のおもった「花玉」をご覧ください。

そして、24日(土)16:15~16:55には、YouTube(「フラワーサイコロジ」で検索)でその様子をライブ配信します。こちらの方もご覧ください。



いけばな用の竹の器作り